

編集後記

おかげさまで、平成4年度の水辺空間に関する調査研究の成果であります「リバーフロント研究所報告第4号」が発刊でき、一安心しているところです。

平成4年度は、リバーフロント整備センター設立満5周年の記念すべき年でしたが、皆様はどのような年でしたでしょうか。

この研究所報告が皆様のお手元に届く頃は、気持ちも新たに新年度の仕事に取り掛かられていることと思います。

さて、本号の巻頭には、当センター設立5周年記念で実施されたセミナーで、東京大学の篠原修教授が「水辺の景観設計」と題して講演されたものを再編集して掲載しております。

口絵には、当センター発足当時からシンボリックな事業である「ふるさとの川モデル事業」の事例写真並びに、近年、全国的にパイロット事業が進められている「多自然型川づくり」の事例写真、さらに国内及び海外出張報告での写真を掲載しております。

論文として、スーパー堤防に係わるリバーサイドタウン整備手法に関する研究、多自然型河川工法に関する研究、緑化ブロックの開発に関する研究など18編、セーヌ川の景観要素に関する一考察と題した海外出張報告1編、「人と自然にやさしい川づくり大賞」の応募作品に関する報告1編を掲載しております。

このように、様々なテーマの研究報告を掲載しましたが、この研究所報告が関係の方々に少しでもお役立てすることが出来れば幸いです。

最後になりましたが、本研究報告の発刊に当たり、年度末のお忙しい中執筆頂いたセンター職員の方々にこの機会を借りまして、厚くお礼申し上げます。

編集担当	研究第一部	角野 和美
	研究第一部	長妻 等